

日蓮宗 常栄山 本照寺だより

無参拝での法要も3回目



午前6時半から住職、副住職2人にて勤めました

■コロナ禍第7波の感染拡大のため、今年も一昨年、昨年同様となります無参拝者にての「お盆大供養祭・お施餓鬼」となりました。



午前6時半から一時間、卒塔婆申込者のお名前、法

号などを読み上げ、ご回向いたしました。

■そして午前8時から地区ごとに割り振られた時間を目安に、参拝者は自らの卒塔婆を手に墓地へと足を運び、ご先祖を偲び卒塔婆を建立しました。

心の修行をもっとしたい

■日帰り3回のお山しゅぎょうが終わりました。参加者は37名。6割以上が市外からの

●参加者
神奈川県西部の日蓮宗寺院の僧侶・檀信徒100名以上が参加し、バス3台で現地へ向かいました。本照寺からは12名が参加。

9/1、月初めの寺修行の後に宗務所主催の団体参拝へ参加しました。当日の様子をお届けします。

●内容
厄除けや落語で有名な堀之内妙法寺へお参りし、新国立劇場で日蓮聖人の書き下ろし日本語オペラを鑑賞しました。



妙法寺では厄除け祖師像の開帳、役僧の方によるお堂の案内をしてもらいました。東京大空

堀之内妙法寺 参拝と 日蓮聖人のオペラ鑑賞



襲を免れた江戸時代以来の建造物が多く、かなり見どころがあります。

その後のオペラ鑑賞は、日蓮聖人のご生涯を江戸時代の僧侶と徳川家康の側室「お萬の方」が振り返るという構成の「初めてのオペラで台詞の聞き取りに苦労した」という感想がありながらも「日蓮聖人のご一代を振り返ることができ楽しい時間を過ごせた」「うまく言葉で説明できないが感動的だった。芸術の力はすごい」という感想が挙がりました。

●所感



写真3枚...上から順に、ご開帳を受けた祖師堂。明治時代建築の和洋折衷の鉄門。中庭（全て妙法寺）

副住職のコーナー



「親から親へはとてもおすすめしたいイベントです。子供の向き不向きはあるかなと思います」
同時にこんなコメントも。

参加です。
大まかな内容は過去3年同じですが、今年は「ありのままの現実を見させてくれるのが仏道修行」「他者へのやさしい気持ち、実は自分も癒す」ということを中心に伝えました。

コロナ禍により竹工作以外、全体の2/3は講義や修行の時間なので、好き嫌いが分かれるなあと感じていました。

■アンケートの評価は嬉しいことに3年間上がり続けていますが、例えばこんなコメントをもらいました。
「親から親へはとてもおすすめしたいイベントです。子供の向き不向きはあるかなと思います」
同時にこんなコメントも。

小学生本人の感想です。
「心をめいそうとかで落ち着けたり、集中が高まったり、きれいななるのが気持ちがいい（中略）お寺は、心の悩みとかを教えてもらえるから話がおもしろいです。心の修行をもっとしたい。」



写真3枚...上から順に、ンハリ。雨作滝修行？



9月10日(土)「秋彼岸前の大掃除」へ14名の方がお力添えくださいました。参加くださった皆さん、ありがとうございました。



ご埋葬 おまかせください

字彫代 38,000円 税込
埋葬料 11,000円 税込
清掃・葬石メジ金みまも

本照寺様 出入り石材店

株式会社イシックス

■平塚店 平塚市四之宮2-24-31
■小田原店 小田原市関町1-25-21-201

0120-011140

isix.jp

第95号

厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所
本照寺・須藤教裕
携帯090-9151-6438
honshou49@i.softbank.jp

朝の詩

大人になつたら
兵庫県宝塚市
松本香代 50

大人になつたら
完璧な存在になれると信じていた
大人になつたら
悩みなんて無くなると思っていた
大人というものは
もっと大人だと思いきんでいた
知らなかった
大人になつたら

後期高齢者検診

奈良市
赤井政次 79

逆に子どもに近づくなんてこと
どこか気になる場所
あります
生まれつきノミソと顔が悪いんです
なるほど
ほかに？
最近とくに根性と口が悪くなりました

じいじのおつかい

大阪府西淀川区
岡本準二 71

なるほど じゃあ当分は大丈夫でしょう
「べにしようがべにしようが」とつぶやきながら自転車走らせると「本日 卵特売日 ポイント3倍デー」と大きくアナウンス瞬間 頭は真つ白に焼きそばを皿に盛る！ありや また忘れたしょうがないなあ

夏冬扇

大分市
岸本満雄 74

冬が来た 扇風機をしまわなくちゃ
でも夏がすぐ来るからこのままにしておこう
夏が来た
こたつをしまわなくちゃ
でも冬がすぐ来るからそのままにしている
扇風機とこたつがある
時間が経つのが早くつたのか
おっくうになったのか
(産経新聞)

「日本で唯一の新聞を休刊すべきではない」

不登校新聞



石井志昂・編集長

以下文章は石井志昂編集長

▼「不登校新聞」は24年前の創刊以来、千名を超える不登校・ひきこもり当事者の声を掲載してきました。不登校に関わる情報発信を通じて、広く子供に関わる問題や、子供の権利について、またひきこもりや社会の在り方について考えを提示します。新聞以外の書籍としては「学校へ行きたくない君へ」(2018年・ポプラ社)、「続・学校へ行きたくない君へ」(2020年・ポプラ社)を発刊しています。「私も中学2年から不登校でしたので、この新聞にご縁をいただきました。私にとって不登校は、自分の中の軸のようなものが壊れたような気がしています」と、石井志昂・編集長。

■突如コロナ禍に見舞われた2020年、小中高生の自殺者が過去最多を更新して499名になりました。2021年はそのペースを更新する勢いで自殺者が増え続けています。不登校の人数も8年連続で過去最多を更新し、小学生の不登校者数においてはこの5年で倍増しました。

■少子化が進む現代において、この数字は決して看過できるものではありません。子供は大人以上に敏感に不安定な社会の現状を感じ取っています。そんな苦しむ小中高生に向けて毎月2回発行しているのが「不登校新聞」です。読者は不登校の子供を持つ親が多、紙版とウェブ版を合わせて3800部を発行しています。私たち新聞記者は、不登校の子供を救済する道に

自殺者数が飛び抜けて多い 夏休み明けの登校日

■例えば、ある当事者の女の子がこんな体験談を語ってくれました。イジメを受け高校に通えなくなった時、自分をイジメた人間を黒魔術で呪おうと真剣に考え、図書館に勉強しに行ったことが引きこ

黒魔術！

りを治すか、学校にどう行かせかなどのハウツーやマニュアルは一切掲載していません。引きこもっている子供たちが「どうすれば生きていけるのか」だけを発信しています。著名人や専門家にもご登場いただきますが、一番多いのは当事者やその親にご登場いただくこと。

■特に忘れられない方が2人います。一人はコピーライターの糸井重里さん。不登校の自分はどうか生きたいのか、思い悩んでいた私にひと言、「不登校を楽しんでください。いんだよ」と声を掛けてくださいました。その言葉に背中を押され、不登校の経験を活かせる道として、19歳の時に不登校新聞社に正式に入社して働くようになりました。もうひとり、戦後思想界の巨人・吉本隆明さんです。私が学歴にコンプレックスを抱えているのを見抜くと、「コンプレックスを持つくらいなら大学に行け。行ったら、いかに大学がくだらないかが分かるから」と言われました。この強烈な助言のおかげで、過去を吹っ切り仕事に没頭できるようなったのです。

もりを解決できた要因でした。結局、黒魔術は現実的ではないと悟って、自分をイジメた人よりも幸せになることが最大の復讐だと思い至り、それが生きる支えとなった幸せに暮らせるようになったと言います。こうした綺麗事なしの実体験、一人ひとりが血や涙を流して得た学びの中には、生きるエネルギーや人生の極意が詰まっている。そしてそれは何物にも代えがたい価値がある、それが私の実感です。

■働き始めて5年目、24歳の時には常勤が2名だった編集部内で、編集長が退職したため、繰り上げで編集長を務めることになりました。試行錯誤を重ねるも年々読者が減り続け、2012年には採算ラインを3年連続で下回り、発行部数は800部に。紙面に休刊予告を出すに至りました。

編集後記

■宮澤賢治は17歳で法華経に出会い、如来寿命品第16を読み、身体が震えるほど感動したと、ある本に記されていた。思うに、賢治は法華経の「世界(地球)は全てつながっている」という考えに、次なる有名な言葉を読むと、それが取ったのだと思う。「世界が全体幸福にならないうちは故人の幸福は分らない。自我の意識は個人から集団、社会、宇宙と次第に進化する。(中略)新たな時代は世界がひとつの意識になり、生物となる方向にある。正しく強く生きることは、銀河系を自らの中に意識して、これに忠実に生きていくことである。われらは世界のまことの幸福を(たず)ねよう。求道すに道である」と。(農業芸術概論)前号ではジョン・レノンの「イマジネーション」を引用し「世界(地球)は全てつながっている」と、それは大いなるひとつの生命」との世界観をお伝えしたが、ロシアのウクライナ侵略を思う時、法華経のこの世界観を伝えることが出来ないものか、と思う。

■働き始めて5年目、24歳の時には常勤が2名だった編集部内で、編集長が退職したため、繰り上げで編集長を務めることになりました。試行錯誤を重ねるも年々読者が減り続け、2012年には採算ラインを3年連続で下回り、発行部数は800部に。紙面に休刊予告を出すに至りました。

「9月1日問題」

■2015年には、夏休み明けの始業式が行われる9月1日当日の自殺者数が飛び抜けて多いという統計を内閣府が発表しました。しかし、どのメディアもこの事実を報道しません。専門家でないのに、デリケートな問題に踏み込めなかったのでしょうか。私たちは当事者への取材経